

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護過程Ⅲ Process Planning for Care Work Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護過程Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護過程Ⅳ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2F	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護過程Ⅲでは、介護過程Ⅰ・Ⅱの授業で学んだ基礎をふまえて、実践的展開ができる能力を養う。特に介護施設に入所している利用者を対象とし、自立に向けた介護過程の展開方法を学び、理解することを目的とする。				
授業の目標				
①利用者の生活を考慮し、状況に応じた最善の支援方法を選択できるようにする。 ②専門知識や技術を統合した上で、自立に向けた介護過程を展開できるようにする。 ③専門職の一員として他職種との連携の必要性を説明できるようにする。 ④専門職としての関わり方や介護福祉士として果たすべき役割を述べるようにする。				
授業の方法				
施設介護実習Ⅰで受け持った利用者や紙上事例を用いて個別に介護過程を展開する。各課題は学生に返却し、必要に応じて個別指導を行う。また、施設介護実習Ⅰの事例に関しては、最善の支援方法になっているかグループで再検討も行う。介護過程を展開することが中心の授業ではあるが、介護施設における実際も講義として取り入れる。				
学習の成果(学習成果)				
介護における専門知識や技術を統合し、アセスメントした内容から介護計画を立案することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらい・成績評価の方法など) 介護過程における既習知識の確認			
第2回目	施設介護実習Ⅰで受け持った利用者の介護過程の展開① 個人ワーク 【レポート1:施設介護実習Ⅰの事例を用いて介護過程を展開、提出期限は授業で指示する】			
第3回目	施設介護実習Ⅰで受け持った利用者の介護過程の展開② 個人ワーク			
第4回目	介護過程の実践的展開① 専門知識・技術を統合した最善の支援			
第5回目	介護過程の実践的展開② 施設介護実習Ⅰの事例をグループで再展開(情報の整理、分析・解釈・統合)			
第6回目	介護過程の実践的展開③ 施設介護実習Ⅰの事例をグループで再展開(ニーズ・課題の抽出、目標の設定)			

第7回目	介護過程の実践的展開④ 施設介護実習 I の事例をグループで再展開（計画立案）	
第8回目	介護過程の実践的展開⑤ グループで再展開した内容の発表、まとめ	
第9回目	介護施設における介護過程の実際①（展開事例の紹介）	
第10回目	介護施設における介護過程の実際②（センター方式、24時間生活シート、ひもときシート）	
第11回目	施設入所者の事例を用いた介護過程の展開 [事例①] アセスメント（個人ワーク） 【レポート2：紙上事例①による介護過程の展開、提出期限は授業で指示する】	
第12回目	施設入所者の事例を用いた介護過程の展開 [事例①] 計画立案（個人ワーク）	
第13回目	施設入所者の事例を用いた介護過程の展開 [事例②] アセスメント（個人ワーク） 【レポート3：紙上事例②による介護過程の展開、提出期限は授業で指示する】	
第14回目	施設入所者の事例を用いた介護過程の展開 [事例②] 計画立案（個人ワーク）	
第15回目	実施・評価の記録方法、介護過程記録時の留意点（まとめ）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備し、必要なことはノートにとっている。②個人ワーク時は集中し、わからないことは質問しながら取り組んでいる。③グループワークに積極的に参加し、自分の考えを述べている。
レポート	60%	施設介護実習 I で受け持った利用者および紙上事例（2事例）の介護過程を展開する。S評価のレポートは、各構成要素が適切に記述できていること。事例を的確に捉え、利用者の視点で考えられていること。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	20%	第8回目の発表内容を以下の視点で評価する。①グループで再検討した事例を適切に捉えている。②利用者の視点で考えられている。③専門知識・技術を活用している。④発表態度（声の大きさや言葉づかい）
その他		
教科書と参考図書		
新・介護福祉士養成講座 第9巻「介護過程」中央法規出版 その他、既習のテキストや参考書、授業での配布資料を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
演習科目であり、学生の個人・グループワークが中心である。積極的に意見交換し学びを共有して欲しい。 飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机の上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。		